

平成30年5月28日

加西市議会議長 衣笠 利則 様

総務常任委員長 中右 憲利



総務常任委員会行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施いたしましたので、報告いたします。

記

- 1 日 程 平成30年5月15日(火)～16日(水)
- 2 視察先 岐阜県多治見市、長野県安曇野市
- 3 参加者 中右憲利、黒田秀一、土本昌幸、長田謙一、深田真史
丸岡弘満、三宅利弘、桜井雄一郎(議会事務局随員)
- 4 視察内容等
 - ◇岐阜県多治見市(5月15日(火) 13:00～14:30)
 - (視察項目) 英語教育について
 - (視察対応者) 教育研究所 熊崎所長、前田総括主査
多治見市議会 加納議長
議会事務局 仙石局長
 - (内 容) 別紙のとおり
 - ◇長野県安曇野市(5月16日(水) 9:30～11:30)
 - (視察項目) デマンド交通「あづみん」について
 - (視察対応者) 政策経営課 高嶋課長、蓮井係長、丸田主査
安曇野市議会 小松議長
議会事務局 細田次長、本郷係長
 - (内 容) 別紙のとおり
- 5 所 感 各委員の所感は別紙のとおり

【視察内容】岐阜県多治見市（H30年5月15日視察）

視察テーマ：英語教育について

（笠原中学校区での取り組み）

①英語教育への取り組みの沿革

- ・特色ある英語教育への取り組みは、多治見市編入前の旧土岐郡笠原町時代、平成14年笠原中学校区での幼保小中一貫教育としてスタートしている。（平成18年に笠原町は多治見市に編入）
- ・平成15年～29年までの15年間（1期3年で5期連続）、笠原小・中学校が文部科学省の「英語教育研究開発学校」に指定された。
- ・30年度以降も「教育課程特例校」として従来の指導体制、授業時間を維持している。

②研究の概要について

- ・国際社会において必要とされるコミュニケーション能力を育成するため、小学校第1学年から英語科を開設した場合における、小・中学校9年間を通じた系統的な教育課題、指導方法及び評価方法の在り方についての研究開発

③研究の手法について＝笠原型コンテンツ・ベイスト（伝え合う内容を重視し、問題解決的な活動により、伝え合う必然を生み出す指導方法）

- ・問題解決的な活動により「聞く・話す・読む・書く」必然を生み出すとともに、コミュニケーションへの意欲を高める場面設定をすること。
- ・他の教科・領域で児童の意欲、関心が高い学習事項を生かした題材を扱うこと。〈小学校〉
- ・驚きや発見、気付きの生まれる伝え合う値打ちの高い内容でコミュニケーションをすること。

④笠原小学校英語授業時数について（合計330時間）

- ・第1学年・第2学年 生活科から70時間（35時間×2学年）
 - ・第3学年・第4学年 総合的な学習の時間から120時間（60時間×2学年）
 - ・第5学年・第6学年 総合的な学習の時間から140時間（70時間×2学年）
- （火曜日、木曜日の朝には15分の短時間学習を実施し、文字や基本的表現に慣れ親しむ活動もしている。）

⑤幼稚園・保育園・小学校の連携について

- ・笠原中学校に1名、小学校に2名、合計3名のALTを配置している。そのうち2名が毎週月曜日に幼稚園・保育園を訪問して外国語活動を行い、幼稚園・保育園と小学校との接続を図っている。

⑥小学校と中学校の連携について

効果的に連携を図るために「情報交換」「交流」「カリキュラムの連携」の3点を大切に組み合わせている。

・情報交換

- ☆小学校と中学校の教師がお互いの外国語の授業を参観
- ☆小学校と中学校が合同で研修会を開催

・交流

- ☆教師同士の交流⇒小中英語教育交流会を開催（月1回）
- ☆教師と児童の交流⇒中学校の英語教師やALTが小6児童の外国語の授業に参加
⇒小中兼務教員（加配）が、小5・6の授業で日本人英語指導助手として指導
- ☆児童と生徒の交流⇒中2の生徒と小6の児童がコラボ授業を実施

(多治見市全体の取組)

⑦授業時数について

- ・平成 17 年度より「教育課程特例校」として、全小学校（笠原小学校を除く）において第 3・4 学年で 18 時間の外国語活動を実施
- ・第 5・6 学年は、学習指導要領の通り 35 時間実施

⑧ALT の活用について

- ・笠原小学校・中学校以外の小学校 12 校、中学校 7 校に対し、ALT を 4 名雇用。（派遣契約で一人当たり年間およそ 500 万円）
- ・小学校は授業時数の 50%、中学校は 10%を目標に計画的に配置
- ・各学校において外国語担当の教員が校内研修を実施
- ・笠原小学校の ALT のうち 1 名は毎週水曜日に他の小学校を巡回（4 年間で 12 校を計画的に実施）

⑨教員研修について（国・県を除く）

- ・多治見市教育研究会小学校外国語部会に各校より 1 名参加し、年間 4 回研修（授業研究会中心）
- ・多治見市小学校外国語活動研修会に各校より 1 名参加し、年間 3 回研修（指導方法や実践の交流中心）

⑩小中の連携について

- ・岐阜県は、小学校と中学校の両方で勤務している教員が多い。
- ・小学校と中学校で、研究授業の参観等を積極的に行っている。

⑪成果

- ・平成 27 年度に小学生に実施した独自の調査では、どの学年でも 9 割程度の児童が「英語の授業はわかりますか？」との問いに対して、「半分以上分かる」と答えている。これは、学習指導要領により高学年で学習すべき内容を、中学年ですでに学習し、基本的な英語表現に慣れ親しんでいることが理由として考えられる。
- ・「外国の人が話しかけてきたら、あなたは どうすると思いますか？」という問いに対して、「だまっている」「その場から逃げる」と答えた児童は 3 年生で 15.0%いたが、学年に上がるにつれて減少し、6 年生では 7.8%と半減している。
- ・平成 24 年に同じ問いに同様に答えた児童は、3 年生が 23.5%、6 年生が 11.8%であった。
- ・このことから、中学年から外国語活動に取り組むことによって、年々外国語でのコミュニケーションに対する抵抗感が減少していると考えられる。

⑫課題

- ・「英語の授業は好きですか？」という問いに対して肯定的に答えた児童は、3 年生では 79.8%だが 6 年生では 58.0%まで減少している。
- ・同様の調査を笠原小学校で実施したところ、6 年生でも 81%の児童が「英語の授業が好き」と答えている。
- ・活動内容に必然性を大切にしている笠原小学校の取組を生かして、高学年でも「好き」と感じられる外国語の授業を今後目指していく必要がある。

【視察内容】長野県安曇野市（H30年5月16日視察）

視察テーマ： デマンド交通「あづみん」について

①構築の経緯と現在までの取組

- ・安曇野市は平成17年、南安曇郡豊科町・穂高町・堀金村・三郷村・東筑摩郡明科町が合併して発足。人口約98,000人、面積約332km²
- ・合併当初の安曇野市では、ごく一部の路線を除いて民間路線バスが廃止されており、旧町村単位で独自に交通施策を行っていた。しかし乗り継ぎができないなど連携がとれていなかったり、利用者が低迷するなどの問題があった。安全で快適な地域づくりを目指す上で各地域内の運行にとどまっている交通体系を再構築し、地域間の交流、連携を推進する新たな公共交通システムを確立することが重要かつ早急に解決すべき課題となっていた。
- ・平成18年7月、国土交通省の公共交通活性化総合プログラム事業を活用し、新たな公共交通システムの実現を目指した検討会を設置。関係者と連携しつつ、ワークショップなどで寄せられた各地域の住民意向を十分に反映しながら検討を重ねた結果、平成19年9月10日から「あづみん」の愛称で14台の乗合タクシーを中心とした運行を開始するに至った。
- ・公共交通活性化総合プログラム事業での検討を踏まえ、安曇野市地域公共交通協議会を設立するとともに、安曇野市地域公共交通総合連携計画を作成。平成20年度から3年間の実証運行や調査検討を行った。

②検討段階での特徴的な取組

- ・アンケート調査やワークショップ等を開催し、実際に利用する住民の意向要望を丁寧に拾い出す。
- ・運行している既存交通の利用状況を調査。
- ・国県をはじめ地域団体、交通事業者等を交えた協議会を組織して検討。地域の声を反映。
- ・観光に対応した交通システムを検討、観光客からも1000件を超えるアンケートや交通実態調査を実施。

③運行エリアの決定

- ・運行エリアは旧5町村に分け、共通乗合エリアを作って、エリア内はどこでも乗り換えなしで行けて、共通乗合エリアで乗り換えをすると市内全域へ行くことが可能となる。主な共通乗合エリアは総合病院、スーパー、JRの駅、市役所等が集中する旧豊科町の一部が指定されている。

④財政シミュレーション及び現状

- ・基本としては今までの各地域で実施されていた公共交通の予算内で、全市内を運行し、利便性も高いデマンド交通システムの実施を目指す。
- ・平成18年度の各地域の主な公共交通の経費の合計は71,434,000円、これにスクールバスや福祉関係の交通施策等を含めると市の交通施策にかかる経費は年間1億2～3千万円。

・支出額の算出（シミュレーション）

車両借り上げ料 車両借上台数14台×1日借上費20,000円×年間運行日数245日=68,600,000円
利用料金運転手等還付金 100円×1日利用者420人×年間運行日数245日=10,290,000円
事務経費 人件費等 20,000,000円
支出合計 98,890,000円

・収入額の算出（シミュレーション）

1日利用者420人×乗車料金270円×年間乗車料金245日=27,783,000円（収入額合計）

収支 27,783,000-98,890,000=▲71,107,000円 安曇野市負担額約71,000,000円/年間

- ・現在の安曇野市の負担もほぼ年間約7千万円ぐらいとのこと。

⑤運行の概要（運賃、運行時刻等）

- ・現在の運行車両 16 台中 9 台は市が合併特例交付金にて購入し事業者は無償貸与している。
- ・デマンド交通の時間は 8 時から 16 時便まで、その前後の時間帯は同じ車両を使って定時定路線となる。
- ・デマンド交通は、各エリアで行き便・帰り便とも原則各 9 便、計 18 便運行されている。
(行き便・帰り便とも 1 時間に 1 便程度の運行となる。)

	定時定路線 (6:40 頃～)	デマンド交通	定時定路線 (17:00 頃～)
エリア	穂高駅～明科駅 豊科駅～田沢駅	安曇野市全域	穂高駅～明科駅 豊科駅～田沢駅 明科駅～潮沢 (夕方のみ)
料金	大人 200 円 小中高校生 100 円 障害者 (手帳提示) 100 円 未就学児 無料 通勤用定期券 1 月 4000 円 通学用定期券 1 月 2000 円	大人 300 円 小中高校生 100 円 障害者 (手帳提示) 100 円 未就学児 無料 300 円回数券 11 回 3000 円 100 円回数券 10 回 1000 円 ※乗り継ぎ時も同額	大人 200 円 小中高校生 100 円 障害者 (手帳提示) 100 円 未就学児 無料 通勤用定期券 1 月 4000 円 通学用定期券 1 月 2000 円
予約	不要	必要 (予約方法: 電話)	不要
主な利用方面	長野方面 通勤・通学用		長野方面 通勤・通学用

⑥運用のシステム

- ・デマンド交通「あづみん」の利用者登録、予約受付、運行経路の決定、各タクシー会社への連絡等、実際の運用については社会福祉協議会に委託をしている。
- ・受付センターでは、コンピューターシステムを援用しながら各地域の地元オペレーターによる一筆書きの作業で運行経路を決定しているとのこと。
- ・経路が決定すると受付センターから運転者のタブレットに送信されるようになっている。
- ・利用者は事前に登録することが必要とされているが、登録をしていない人、あるいは市外の方でも利用は可能であるとのこと。

⑦29 年度の利用状況 (土日・祝日・年末年始は運休)

- ・29 年度の「あづみん」の利用者合計は 85,123 人 運行日 244 日 一日平均利用者数 348.9 人
- ・定時定路線は、利用者 18,551 人 1 日平均利用者数 76.0 人

⑧安曇野市における運転免許証返納者の推移(運転免許証返納者とは、運転免許証有効期限内に返納した人)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
返納者	230	193	138	152	174	206	223	310	309
チケット交付者	185	148	95	97	133	133	141	199	232

※運転免許証返納者への「あづみん」無料チケット 30 回分の交付制度は H21.4.1 から開始

⑨「あづみん」の特長

- ・自宅から目的地まで直接移動できるフルデマンド方式で、自宅前の道路や歩道が十分整備されていなくても車両が運行できる状況であれば対応可能。近くに病院、商店がなくても便利に生活ができる。
- ・将来、利用者が減少するようなことがあっても、バス路線のように線で移動するのではなく、面で移動できるシステムであり、運行台数等の経費を抑えながら利便性は維持できる。

◇岐阜県多治見市【英語教育について】

視察日 平成30年5月15日

- ・平成15年～29年までの15年間、笠原小・中学校が文部科学省の「英語教育研究開発学校」に指定されて、小1から中3まで9年間英語に重点を置いた教育を実施している。ビデオで小学校での英語授業の様子を見せていただいた。(平成30年度以降は「教育課程特例校」として従来の英語教育を維持)
- ・新しく覚えた単語を使って、児童が二人一組になって会話をし、後で会話の中で困ったこと等を全体で出し合い、その単語の使い方やスムーズな会話ができる方法を習得していくという授業内容であった。
- ・ALTも交えてこのような授業が小学校低学年から行われることで、使える英語が自然に身についていくのではないかと思った。
- ・また小学校では英語専門の先生ではなく担任の先生が英語も教えるとのこと。そのことにより先生の英語指導能力の向上も図ることが出来るということであった。実際笠原小学校で教えてきた先生が他の小中学校に行くと、英語指導能力が明らかに違うということを言われていた。
- ・岐阜県では小学校、中学校の先生が固定でなく両方で勤務することが多く、小中連携がしやすいということも特徴的なことと思った。
- ・加西市も児童生徒数が少ない校区で「教育課程特例校」の指定を受けようという計画があったが、確かに笠原小・中学校の取組を見ると、その校区に自由に行けるものなら子供を行かせたいと思うような英語教育であった。
- ・加西市ももう一度、何らかの形で特色ある英語教育をすることを考えてもいいのではないかと思った。

◇長野県安曇野市【デマンド交通「あづみん」について】

視察日 平成30年5月16日

- ・5つの自治体が合併したということで、旧自治体内及び主要施設が集中する所(共通乗合エリア)には乗り換えなしで行け、他地域には共通乗合エリアで乗り換えて、同一料金でどの地域にも行けるという素晴らしいデマンド交通システムを実施されている。
- ・NHKの「クローズアップ現代」でも取り上げられ、平成21年地域公共交通活性化・再生優良団体国土交通大臣表彰も受賞されている。
- ・受付センターは社会福祉協議会に委託され、主に各地域の女性たちが受け付けて、コンピューターシステムを援用しながら、自分達で一番効率的な運行経路を考えてドライバーに送信しているとのこと。
- ・路線バスがほとんど廃止されているということで、スムーズなデマンド交通導入ができたと思う。
- ・加西市でも北条鉄道、路線バスと共存する形のデマンド交通が導入できればと思う。ただ、ふるさと創造会議にデマンド交通を運営させるという方針はうまくいくか疑問。
- ・安曇野市の面積は約332km²で加西市の2倍ある。加西市も同じように運行と受付等を事業者へ委託するという形で、しかも安曇野市の経費7000万円の半分以下でできるようなデマンド交通システムを考えてみてはいかがだろうか。(加西市ぐらいの面積だと、受付も運行もタクシー会社等に委託してしまうという方法がいいのかもしれない。)

〔所感〕 黒田秀一

【岐阜県多治見市】英語教育について

多治見市では、幼保小中一貫教育の柱のひとつとして、英語教育を掲げ、外国語を教科として扱っています。多治見市の考え方は、日常生活に英語を取り入れ、中学校卒業までに英語が話せるようにするとのことでした。

A L Tについては、一人あたり年間500万円もの費用はかかりますが、7名を採用して力を入れています。

成果として児童の9割程度が英語の授業がわかりますかの問いに対して、半分以上がわかると答えています。そして外国人が話しかけてきたらどうしますかの問いに対して「だまっている」「その場から逃げる」と答えた児童が、最近では半減しているそうです。

加西市においても中学年ぐらいから英語の授業を取り入れ、A L Tを今以上採用し、児童が楽しく英語が話せるようにしていくべきと考えます。このような税金の使い方は加西市にとって大事かと思えます。

【長野県安曇野市】デマンド交通「あづみん」について

安曇野市も加西市同様、山に囲まれた緑豊かな市であります。

公共交通活性化総合プログラム事業、合併特例交付金を活用してデマンド交通を始められています。というのも、ごく一部の路線を除いて、民間の路線バスが廃止になり、新たな公共交通システムの実現を目指して検討会を設置するに至ったわけです。

タクシー会社4社に委託して車両も無償貸与して運行しています。

デマンド交通はお年寄りには便利です。予約していれば、家までお迎えにきてくれます。ただ、年間の経費が約1億円かかり、市の負担金は約7000万円であるとのこと。高齢化社会においては大事であると認識するが、多額の費用がかかるということです。加西市ではコミュニティバスがあり、市街地を走るねっぴ〜号や在田地区を走るはっぴーバスがありますが、地域に合った公共交通であるのか効果等を検証し、残すのか新たなものを導入するのか検討する必要があると思いました。

1. 岐阜県多治見市：英語教育について

多治見市の英語教育は、中学卒業時に「一人でも外国旅行が出来る程度」を目標に掲げている。

- 1) 小学校と中学校の教師は移動を含めてどちらも出来るように区別がない。
- 2) 授業時間が不足するが、生活・総合学習を減らして対応している。

<考察>

多治見市は外国語（英語）教育を大きな柱として地域を巻き込んで取り組んでいると考える。32年度から完全実施される次期学習指導要綱の内容を実施するには、授業時間の不足が発生するため、小中の更なる連携、時間構成の変更や教師のスキルアップなどに取組む必要がある。また、加西市は空調が完備しており、夏休みを短縮して授業時間を確保することも検討すべきではないか。参考だが、多治見市の小中学校には空調設備がない。

2. 長野県安曇野市：デマンド交通「あづみん」について

安曇野市は殆どの民間バス路線が廃止されたため、国土交通省の公共交通活性化総合プログラム事業を活用して新たな公共交通システムの実現を目指した。

- 1) 5地域のうち、公共交通が全くなかった地域がデマンド型を採用していたものをベースにして市内全域をカバーするシステムを構築した。
- 2) 運送事業は全てタクシー事業者4社に委託している。
- 3) 予約受付業務は社会福祉協議会が担当しており、地域に詳しい主婦を採用して効率を考慮したオペレーター業務を実施している。
- 4) 予約がない時は運行しない。（現状では殆ど予約がある）

<考察>

加西市では、はっぴーバスやねっぴ〜号が定期運行のため、乗客なしの状態での運行が発生する。必要とされるサービスを限られた財源で行う必要があり、継続可能なシステムの構築が求められる。現在計画中の地主体型交通システムが早期に運用出来るよう、行政と地域の更なる連携強化が必要ではないかと考える。

〔所 感〕 長田 謙一

【岐阜県多治見市】英語教育について

合併前の笠原地区のみで保育園、幼稚園、小学校、中学校で幼保小中一貫教育の柱の一つとして英語教育が開始された経緯がある。

取り組みにおいては、平成 14 年で次年度に文部科学省の研究開発学校に指定され平成 28 年より小学校全学年で外国語を教科として授業を開始している。

加西市も英語授業を開始しようとしているが、授業時間の確保、全生徒がついていけるか、そのあたりも十分な検討は必要と考えます。また、教員の英語研修の検討も重要視すべきと思います。

加西市においては、授業での小中学校の英語の連携も必要と感じました。

【長野県安曇野市】デマンド交通「あづみん」について

加西市において、デマンド型の公共交通の必要性を感じた視察であった。

交通手段のアンケート調査、結果を踏まえ現行の運用では利用するには不便である声を再調査し公共交通のあり方をしっかりと調査・検討すべきと考えます。

いつまでも空気を運ぶ公共交通機関では、無駄に市民の税金を投入し続けるだけであると強く感じました。

受付センターも視察したが、ハード面、ソフト面の充実が目を引きました。加西市の 2 倍以上ある面積をしっかりと網羅しているのも素晴らしい。

(視察の所感) 深田 真史

岐阜県多治見市【英語教育について】

合併前の旧笠原町の教育長のトップダウンで始まったと聞いたが、それぐらいの熱意がなければできないものだと感じる。単に英語の授業を低学年から実施するだけでなく、「1人で外国に行けるだけの能力を身に着ける」、「外国人(ALT 含め)に臆することなく接することができる」、「修学旅行では必ず外国人に話しかける」など、明確な目的・目標を掲げていることに感心する。加西市教育委員会もぜひ見習ってほしい。

質疑応答で、英語に苦手意識のある子がいるか尋ねた。笠原地区ではそのような子は一人もいないとのことであった。まず英語に慣れ親しむ環境を作ることが大切だと思った。また、ALT が児童と一対一で、どれだけ理解しているか確認しているとのことであったが、これも大切だと思う。ただし、今後、担任の先生が英語の授業をしなくてはならないのは酷だと思う。ネイティブの英語とは訳が違うので、ALT や英語科の先生が小中一貫で受け持つような形が良いのではないかと感じた。

なお、多治見市の場合、ALT 5名で19校をカバーしているという話であったが、この点、加西市のほうが充実している。だから卑屈になることはない。結局、「何を目標に英語教育をするのか」、「英語教育を通じてどのような人材を育成するのか」をはっきりさせることではないかと思う。

長野県安曇野市【デマンド交通「あづみん」について】

デマンド交通にかかる費用が7千万円であるとの説明であったが、これは加西市におけるねっぴ〜号への負担金、路線バスへの補助金、はっぴーバスの委託料を足したものと同額である。ちなみに安曇野市は面積、人口ともに加西市の2倍であるが、いっそのこと加西市内のバスを一旦廃止し、デマンド交通に切り替えたほうが良いのではないかと思うほどであった。また、デマンド交通を市内タクシー会社にそれぞれ区域を分けて委託している点も特筆すべき。

また、免許返納者へ無料チケットを配布することで返納者数も増えてきているとのことだが、返納のメリットは返納後の外出に支障が出ないことが大切だと思う。その点、デマンド交通のほうが返納のメリットが大きい。

いずれにせよ、加西市でもデマンド交通を導入できれば良いが、既存の路線バスやコミュニティバスを廃止しない限り、難しいと思う。残念ながら、大胆な決断は期待できない。また、市が考える北条鉄道の駅や現在のバス停への接続を前提とした「フィーダー交通」では利用者は少ないであろう。「地域主体型交通」の具体的な内容が見えてこないが、乗り継ぎのない Door to Door、北条への直接乗り入れでなければ意味がないと思う。

〔所感〕 丸岡弘満

【岐阜県多治見市】○「英語教育」について

現在の多治見市（平成 18 年土岐郡笠原町と合併）となる前から、笠原校区では英語教育の取り組みがなされており、平成 14 年幼保小中一貫教育がスタートした翌年から昨年の 29 年度まで、5 期指定・連続 15 年間「英語教育研究開発学校」として取り組まれてきた「英語教育」について学ばせていただきました。また、今年度以降も笠原校区では「教育課程特例校」として、現在の指導体制を維持し、その他、市内の学校においても、小中学校教諭の垣根のない異動勤務がある特色を生かしつつ小中の交流によって引き続き英語教育に力を入れていくようです。

中学校の成果として「スピーキングテスト」では、15 問中 9 問で全国を上回り、「英語能力判定テスト」（英検 3 級程度の実力がある生徒）では、今年度 7 月が 50%で、昨年度の 2 月では 60%となっています。文部科学省が平成 32 年に 60%を目標にしていますので、今現在では大変素晴らしい結果が出ていると思います。また、私が一般質問した平成 29 年 9 月の本議会で教育委員会の答弁では、平成 28 年度加西市は 32%で全国の 36%と比べて若干低い数字となっております。今回視察させて頂いた笠原中学校の数字まで一気に追いつくのは難しい現実もありますが、今後加西市の中学校においても文科省が示す英語レベルまで上げ、全ての生徒が英検 3 級取得を一つの目標とするように努力していただきたいと思ふ。そして、加西市の教員が準 1 級以上（TOEIC で 730 点以上）を取得している割合は 27%であり、全国平均が 32%と比べて若干低い数字となっている現状の問題も同じくありますが、外国語授業の時間確保と授業内容の研究や工夫、ALT との連携強化や特色を上手に生かした加西市独自の英語教育の取り組みへ期待したいと思います。

また、これなら加西市でもすぐに実践できる良い英会話体験だと感じたのは、多治見市では京都・奈良方面へ行く修学旅行で、1 回は必ず外国人に話しかけて英語で会話をするという実践されているそうです。是非とも加西市の修学旅行においても子ども達に目的意識を持たせて実践していただきたいと思ふました。

【長野県安曇野市】○デマンド交通「あづみん」について

平成 17 年に 5 町村が合併して安曇野市が誕生。合併当初は、ごく一部の路線を除いて民間路線バスが廃止されており、旧町村単位で独自に交通施策を行っ

ていました。しかし、快適な地域づくりを目指す上で合併前からの重要課題であった交通体系を平成 18 年 7 月国交省の「公共交通活性化総合プログラム事業」を活用し、新たな公共交通システムの実現を目指した検討会を踏まえ、平成 20 年度から 3 年間の事業計画と実証運行や調査結果をもって安曇野市内全域を走るフルデマンド型の交通システムを実現した「あづみん」について学ばせていただきました。

基本ベースには、合併前に運行されていた堀金地区がモデルとなっているようですが、検討段階においてワークショップ等の開催や住民の意向要望を丁寧に拾い出すことはもちろん、観光客からもアンケート調査や交通実態まできめ細やかな調査実施しているところが特徴的で、大変素晴らしい点でもあると思われました。これによって乗客ニーズの把握としっかりとした裏付けデータをもって実際の運行に役立ったと思います。

また、市域も広大で中山間地などもある中、交通弱者である高齢者・障がい者の足として定着もし、他の自治体と比べてもバスの台数や運行本数も比較的多く、通勤・通学者にとっても便利であると思われました。特に素晴らしいと感じたのは、安曇野市社会福祉協議会へ委託（人件費 2,000 万円）している「受付センター」の人材能力の高さです。この「あづみん」を利用するためには、予約受付専用番号へ電話をかけ、オペレーターが取りついで予約・車両の手配（民間システム導入）となりますが、オペレーターは常に電話予約者の家の玄関や迎えの車を待つため最適な場所の把握と運転者への指示、その他、各地域の道路状況の把握と時間ロスをなくすための点と点を結ぶ最短距離（一筆書きコース）を考え、地図上だけでなく現地にも足を運びながら全てを頭に入れている点です。そのため、自宅から目的地まで安全・安心に直接移動でき、乗合のためにかかる時間ロスも少ないようです。電話でのスムーズな予約と間違いや苦情もほとんどなく、常に住民の利便性を高め、「受付センター」のオペレーターが安曇野市民の交通を陰でしっかりと支えていると感じました。ただ、運行開始から 10 年以上経過して利用者の減もあり、今後は収入増を目指す努力も必要であるとのこと。朝夕の同じ時間帯の利用者が多く、予約が出来ない状況があり、利用者が予約の電話をしても無駄というあきらめなどがあって利用者の減やデマンド型が逆に不便になっている利用者もいるということもお聞きしました。

〔所感〕 三宅利弘

【岐阜県多治見市】 英語教育について

多治見市では、平成 15 年笠原小・中学校が文科省より研究開発学校に指定され、平成 28 年小学校全学年から外国語を「教科」として扱うことにより、小・中学校 9 年間を通じた系統的な英語教育を展開することによって英語科の義務教育終了段階の到達目標の引き上げを図っている。

又、笠原中学校に 1 名、小学校に 2 名合計 3 名の ALT を配置、その内 2 名が毎週月曜日に幼稚園、保育園を訪問して外国語活動を行い小学校との接続を図っている。驚いたのは、小学校すべての担任の先生が指導され ALT の方は、補助体制で臨んでおられることと、小・中学校の教師が互いに「情報交換」「交流」「カリキュラムの連携」の 3 点を大切に取り組んでいる。成果としては、どの学年でも 9 割程度の児童が英語の授業はわかりますか？との問いに対して「半分以上わかる」と答えている、いずれにしても早い時期から英語に親しみを持たせることは、非常に大事であると思う。

【長野県安曇野市】 デマンド交通「あづみん」について

安曇野市では、平成 18 年 7 月より国土交通省の公共交通活性化総合プログラム事業を活用し、新たな公共交通システムの実現を目指した検討会を設置、各地域の住民意向を十分に反映しながら検討を重ね、平成 19 年 9 月 10 日から「あづみん」の愛称で 14 台の乗り合いタクシーを中心とした運行を開始されている。運行時間は、デマンド交通が、8:00～17:00 で他に朝 6:40 頃と夕方 17:00 頃に別途定時定路線を運航し通勤通学の足も確保されている。

デマンドの利用者には、原則事前登録制で、完全予約制となっている。特筆すべきは、受付センターに 6.～7 名のオペレーター職員を配置、受付から車の手配まで完璧な状態で行われている。自宅から目的地まで直接移動できるフルデマンド方式は、住民の利便性を高めている。

安曇野市では、ごく一部の路線を除き民間バスが廃止されており容易にデマンド方式に移行できたものであり加西市での民間バスとの共存は、かなり難しいものと考えているが、路線バスの通っていない所は、導入を検討する必要があると思う。